BLUEBIRD
都立青鳥特別支援学校　学校だより
SEICHO Since1947

第６号　令和４年９月１日発行　校長　諏訪　肇

SDGsと私たち

今回は、少し誌面に余裕があるようですので、日頃私が考えていることをお伝えいたします。右はSDGsについてシンボル的に示されているもので、教科書などにも載っているものです。SDGsは「持続可能な開発目標」とか「世界を変えるための17の目標」などと訳され、「誰一人取り残されない社会の実現」を提唱しています。SDGsと聞くと、ゴミ問題や二酸化炭素の問題などを想像しがちですが、17の開発目標を見ても分かるように、その内容は多岐にわたっています。このSDGsの原文を見てみると、よく出てくるワードがあります。diversity(多様性)とinclusion(包摂性・包括化)、そしてresilience/resilient (立ち直る力/柔軟性のある)です。つまり、「みんな違ってみんないい。みんな仲良く助け合い、しなやかに対応していこう。それが人類の生き残る道。」ということと、私は理解しています。

以前、“目”に関する番組を見たことがあります。そこで取り上げていたのが“色覚”。「人によって色の見え方はさまざまで、色鮮やかに見える人もいれば、そうでない人もいる。でも色鮮やかに見える人が優れていて、そうでない人が劣っているという訳ではない。古代、色鮮やかに見える人は森の中で熟した実を見つけるのが得意で、そうでない人は暗闇で動く動物やきらめく水面の下の魚を見つけるのが得意だったはず。人間は、多様であったからこそ生き残ってこれたのだ。」という内容でした。

また、“ネオヒューマン”という本を読んだことがあります。これはピーター・スコット・モーガンさんというALS患者で、重度の障害がある方が書いたものです。彼は、障害が進行していく中で「人類初のサイボーグになる」として、アバターで会話し、人工呼吸器や栄養補給・排泄処理をする機能を持つ車いす型ロボットを装着して生活しています。車いすロボットの開発には、多くの企業や研究者が携わり、結果として様々な技術的進化をもたらしました。つまり、重度の障害のある方がいたからこそ人間社会が進化し、人類の未来が拓けたとも言えます。

色覚やネオヒューマンの例からも分かるように、人間は多様性があるからこそ生き残り進化していくのです。ゆえに全ての人は、人類の未来にとって必要な人であり、大切にされるべきだということになります。それは、障害の有無には関係がありません。私たち青鳥特別支援学校は、これからも生徒一人一人を大切に育てていきます。二学期は多くの学校行事や実習などさまざまなことがあります。長丁場ですが、頑張っていきましょう。

三軒茶屋校舎(仮設)の工事経過

基礎工事が順調にすすんでいます。写真は8月25日のものです。